



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「JP子どもの森づくり運動」
参加園月例会報
(2015年4月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田 1 - 1 0 - 4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をもちました方々に、活動情報をお送りさせていただきます。ご意見など賜れば幸いです。



「子森通信」は、今月号よりすべての活動参加園にお届けすることになりました。
ホームページと共に、参加園相互の情報交換の場としてご利用いただければと願っております。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

(目次)

1. 特別寄稿「共に生きる心を培う」京都大学名誉教授 鯨岡 峻先生
2. 活動のふり返り
3. 活動レポート
4. 事務局からのお知らせ

●新・どんぐり博士の育苗講座) ~どんぐりの芽生えの季節ですよ! ~

■「JP子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「JP子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもの自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」運営体制

・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟

(公社) 大谷保育協会

(公社) 国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

(一社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(一社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. 特別寄稿

「子森通信」のリニューアル記念として、主に関係論の立場から子どもの発達の問題、養育、保育の問題について様々な発信や提案を行ってられる 鯨岡 峻先生の特別寄稿をお送りします。本運動が目指す「共に生きる心」を考える上で、先生が提示なさってらっしゃる「私は私」と「私は私たち」、二つの心からのアプローチは、まことに興味深い内容です。

「共に生きる心を培う」 京都大学名誉教授 鯨岡 峻

1) 「私は私」と「私は私たち」

人間という文字が示すように、人は人の間でしか生きることのできない存在です。ですから、「共に生きる」というのは人間の本質に通じています。しかし、「共に生きる」というのは実際にはとても難しいことでもあります。共に生きるからこそ、喜びも楽しみも生まれるのですが、逆に共に生きるからこそ、対立や葛藤も生まれるのです。共に生きることが楽しいことばかりでなく難しいことをもたらすのは、人がみな、「私は私」と「私は私たち」という二面の心をもっているからです。こうしたい、こうしてほしい、これはいやだ、というように、人はどこまでも「私」を貫こうとする欲望をもっています。それが「私は私」と言える心に通じます。その心の中核に来るのが、自分は周りから認めら



れている、愛されているから大丈夫という自己肯定感と、そこから派生する何かをしようとする意欲です。他方で、人には誰かと気持ちが繋がりたい、繋がれば嬉しいし、安心できるというもう一つの欲望があります。それが「私とみんなは私たち」というように、「私は私たち」と言える心に通じます。その心の中核に来るのは、自分の存在を認めてくれる周りの人への信頼感です。この二つの心が自分の内部で衝突や対立を繰り返すので、「共に生きる」ことが難しくなるのです。

幼い子どもたちも、1歳半ばを過ぎる頃から、「私は私」と言える心をかたちづくり始め、年齢と共にその輪郭を際立たせていきます。何でも「自分で！」と自分でしたがったり、自己主張したり、「嫌だ！」と駄々をこねたりというかたちで、「私は私」を前面に押し出してくるようになります。それは子どもの心の成長に欠かせない大事な一面です。他方で、「ママと一緒にがいい」「先生と一緒にがいい」に始まり、「お友達と一緒に楽しい」「私はコアラ組さんだよ」というように、「私は私たち」の面も少しずつ輪郭を整えてきます。一緒にいいのだけれども、一緒にしようとするから、自分の「私は私」と相手の「私は私」が衝突し、トラブルになることも増えてきます。トラブルは周りの大人を困らせますが、しかしトラブルを通して、子どもはどこまで「私は私」を貫いてよいのか、どこで相手に自分を譲らなければならないかが身をもって分かるようになっていくのです。



そのように自分の内面で動く「私は私」と「私は私たち」の二つの心を調整する上で、周りの大人の役割も大事になってきます。トラブルの際、どちらが悪く、どちらが可哀想かを判定するのが大人の役割なのではなく、トラブルの渦中にある子どもそれぞれに、「相手はこんなふうに思っているよ」とその子に分かるように相手の思いを伝えていくのが大人の本来の役割だからです。それによって、「相手にも思いがある」と分かるようになることが「共に生きる」ために欠かせない経験になります。

ともあれ、子どもの内面で「私は私」と「私は私たち」の両面の心がバランスされるようになることが「共に生きる」上に欠かせません。自己主張だけでもだめだし、譲るばかりでもだめです。その両方を兼ね合わせるところに成り立つのが「共に生きる心」なのです。

2. 同じ出来事を一緒に共感することの大切さ

子どもたち一人ひとは、誰とも置き換えることのできない唯一無二の主体です。それぞれに個性的で、同じ子どもは一人としていません。しかし、そのように個性的な主体である子どもは、いろいろな場面で周りの子どもとある出来事を共有し、相手の思いに共感することができます。私たちは個性的である反面、人として共通する部分を沢山持っているのです。共通項の最たるものは身体です。私たちは共通項としての身体を通して、一つの出来事を同じように感じ、相手を感じていることに共感することができます。そして共感できるということが「私は私たち」と言える心がしっかりしてくることに通じています。



身体は自然の持つ息吹を感じ、四季を感じ取ります。そこに共感が生まれます。植物は四季を通じて、種から芽へ、目から青葉に、青葉が紅葉に、葉が枯れて種に、のサイクルを繰り返します。子どもたちはそうした自然のサイクルを敏感に感じ取り、四季に親しみ、その変化を同じように感じ取って、友達同士でその変化を喜び、楽しみ、共感します。そこにも「私は私たち」が息づいています。

人は自然から糧を得て生命を存続させてきましたが、人は自然の一部でもあります。生きるために自然を壊す面があるとすれば、壊した自然を修復して元に戻すのも、よりよく生きるための人の役割ではないでしょうか。自然が壊されることを悲しみ、自然が取り戻されることを喜び、自然と共に生きることを共感して喜び合う、こうした経験が幼少の頃から必要なのだと思います。J P子どもの森づくり運動の主旨は、今述べたことと重なるように思います。子どもたちがこの運動の中で、自然の変化を共有し、共感し、それを通して「私は私」と「私は私たち」の心を育むことが、「共に生きる心」に通じると考えます。



□京都大学名誉教授 鯨岡 峻先生 のご紹介

昭和45年3月 京都大学大学院文学研究科心理学専攻 修了。

京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授を経て中京大学心理学部教授に就任。

退職後平成26年より中京大学心理学部 客員教授に就任、現在に至る。

主に関係論の立場から、子どもの発達の問題、養育、保育の問題について取組んでいらっしゃいます。

○近著

「子どもは育てられて育つ」 慶應義塾大学出版会

「子どもの心の育ちをエピソードで描く」 ミネルヴァ書房

「なぜエピソード記述なのか」 東京大学出版会



2. 活動のふり返り

「子森通信」のリニューアルに伴い、あらためて活動の意義と趣旨・目的をふり返ってみたいと思います。

1. 「J P子どもの森づくり運動」のこれまで

「J P子どもの森づくり運動」では、豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を培うためには、幼少（児）期の五感に訴求する自然と環境の体験が何よりも重要であると考えています。例えば、森の楽しさを体感していない子どもたちは、なかなか森の大切さを実感できないのではと思うからです。でも、現代の幼少（児）期の子どもたちの日常は、圧倒的なデジタル環境にとり囲まれており、リアルな（本物）体験から決定的に遠ざけられています。

そんな現状を踏まえて、「J P子どもの森づくり運動」では、幼少（児）期の子どもたちに本物の自然や環境の体験を継続的に提供するための仕組みづくりとして、特別ご協賛企業：日本郵政グループの皆さんとの協働体制で、2008年から活動の拠点となる全国の幼稚園・保育園の園長先生にコラボレーションを呼びかけ始めました。新しい活動なので、最初はなかなか理解していただけませんでしたが、少しずつ共感の輪が広がりました。2010年には全国都道府県をシェアし、2015年3月現在、全国で97園が参加する大きなネットワークに育ちました。

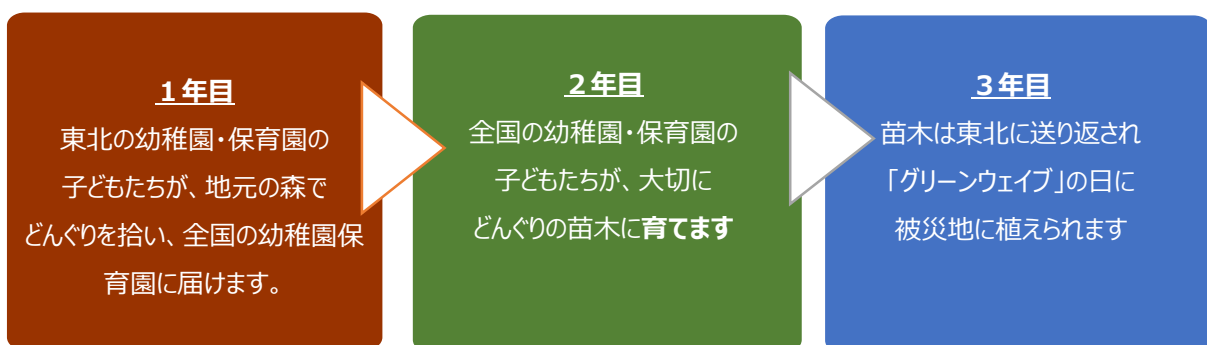


“樹を植えて、子どもの心を育む” J P子どもの森づくり運動

2) J P子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」とは

そんな「J P子どもの森づくり運動」が、これまでの活動に積み上げる「東日本大震災」の緑の復興支援として取り組む活動が「東北復興グリーンウェイブ」です。東北の幼稚園・保育園の子どもたちが拾ったどんぐりを、全国の幼稚園・保育園の子どもたちが苗木に育て、東北に送り返し、「グリーンウェイブ」（*注）の日に被災地に植える活動です。活動を通じて、東北の子どもたちと全国の子どもたちが「どんぐりの絆」でつながります。活動の趣旨、目的は以下の三つです。

- ①被災地の子どもたちと全国の子どもたちが、どんぐりを育てる活動を通じて「絆」で繋がること。
- ②東北の森の「生物多様性」的再生活動に寄与すること。
- ③そんな子どもたちの活動を「グリーンウェイブ」を通じて、世界の子どもたちの環境活動に繋げること。



“生きる力を、共に生きるカベ” J P子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」

*注1：グリーンウェイブとは

生物多様性事務局では、国連が定める「国際生物多様性の日」（5月22日）に、世界各地の子どもたちによって、それぞれの地域で植樹等を行うことを「グリーンウェイブ」活動として呼びかけています。

3. 活動レポート：「東北復興グリーンウェイ」植樹地整備活動

○日時：2015年4月19日（日） ○会場：岩手県山田町豊間根「新植樹地」 ○主催：社会福祉法人三心会
○協力：自然暮らしの会 ○参加者：山田町第一保育所、豊間根保育園、織笠保育園職員、保護者、他計約60名



J P 子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイ」の二回目の植樹会が、今年も5月22日(金)グリーンウェイの日に岩手県山田町で開催されます。その準備として、4月20日（日）に、全国から戻ってくる東北の苗木を仮植えする苗畑の整備作業が行われました。作業には、山田町の三つの保育園の職員、保護者、約60名が参加してくれました。

今回の植樹地は桑畑として使用されていた場所です。整備作業は、まずは枯れた桑の木をチェーンソーで伐採する作業からです。チェーンソー作業は、東京から参加してくれた「自然暮らしの会」のお二人が担当してくれました。



その後、木の根っこを起こしたり、石を捨てたり、土を耕したり、皆さん汗だくになりながら一生懸命作業しました。ちなみに、この日山田町は桜が満開でした。

これで東北の苗木の受け入れ体制は万全です。全国からの苗木、お待ちしております。



3. 事務局からのお知らせ

1) 「子森通信」について

「J P 子どもの森づくり運動」月例会報「子森通信」は、リニューアルに伴い、今月号よりすべての参加園にお届けさせていただくことになりました。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。「子森通信」は、活動と同じくみなさんと共に作り上げるべきものと思っています。是非、園における活動レポートや感想をお寄せ下さい。直接活動に関わらない行事レポートも歓迎です。よろしくお願い申し上げます。なお、今月号はリニューアルスペシャルということで6 P 拡大版でお届けしました。次月号からは通常の4 Pとなります。

2) 「東北復興グリーンウェイブ」第二回植樹会開催

2015年5月22日(金)「グリーンウェイブ」の日に、「東北復興グリーンウェイブ」の二回目の植樹会が、岩手県山田町にて開催されます。今年は山田町の三つの保育園(山田町第一保育所、豊間根保育園、織笠保育園)に加え、町立の保育園二園(船越保育園、大浦保育園)が参加するオール山田町体制で実施されます。つきましては、現在東北のどんぐりの苗木を育てていらっしゃる参加園さんは、苗木を送る準備をお願いします。子どもたちに活動における大切なことを伝えるチャンスです。「東北の苗木を見送る会」も是非、開催されることをおすすめします。その際、開催情報もご提供願います。

3) 事務局が移転します。

2015年5月より事務局が下記の住所に移転します。

移転に伴い、電話番号、FAX番号が下記に変更となります。メールアドレスの変更はございません。

ひきつぎよろしくお願い申し上げます。

////////////////////////////////////

●新住所：〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4

tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

N P O 法人子どもの森づくり推進ネットワーク(子森ネット)

mailto:info@kodomonono-mori.net

http://www.kodomonono-mori.net

////////////////////////////////////

●新・どんぐり博士の育苗講座(2015年4月号)～どんぐりの芽生えの季節ですよ!～

初めて通信をお読みいただいている方、初めまして「どんぐり博士」と事務局の河内です。博士とはおこがましいのですが、訪れる保育園や幼稚園で少しでも親しみを持って頂ければと、活動では堂々と「どんぐり博士」と名乗っています。押さえておきたい自然のこと、そしてどんぐりの木を育てることについてのミニ知識を発信します。気楽に目を通して下さい。どんぐり博士：河内和男(森林インストラクター)



この4月は例年よりかなり早く桜が北上しました。そしてその後、冬の間葉を落とす木々(落葉樹)、特にどんぐりを実らせる木々が若葉を出して、やはり例年より早く、鮮やかな緑色に庭や里山を染め上げています。そして、昨年秋に植え付けたどんぐりが芽を出して双葉を開く頃です。各園のどんぐりはいかがですか?「まだだよ～」と言うところも有りますね。地域と種類によりこれからの発芽もあります。楽しみに見守って下さい。

次に、少し前までは天候不順で雨が多かったため、植え付けたどんぐりや苗木への水やりは少しで済みました。しかし、これから梅雨入りまでは、晴れの日が多く乾燥してきます。それに対して苗木は、新しい葉を大きくし、光合成を盛んにおこない生長を始めます。つまり水を沢山必要とする時期です。「東北復興グリーンウェイブ」用など、どんぐりから苗木を育てている参加園のみなさん。冬の間休んでいたどんぐりの観察と水やりを再開する時期と成りました。土が乾いていたら、午前か夕方にたっぷり水をあげて下さい。

苗達の喜びが伝わって来ますよ。